

ほくりく「食」と「農」の消費者ネット意見交換会(新潟県)の概要

日時：令和5年12月19日（火曜日）

場所：北陸農政局新潟県拠点付属庁舎3階会議室2

令和5年12月19日、「食料安全保障・食料自給率の現状と課題」を本年度のテーマとして、新潟県内の消費者団体5団体等から計9名の方々を招いて意見交換会を行いました。

以下、その概要についてご紹介します。

北陸農政局本田局次長から、「北陸農政局では消費者の視点に立った施策を推進することを目的に、消費者団体の皆様と意見交換を実施しており、日頃感じている農政に対する忌憚のない御意見をお聞かせいただきますようお願いいたします。また、本日の内容について、各団体会員の皆様にも紹介していただき広げていただければと思います。」と挨拶しました。



【開会挨拶する本田局次長】

まず、各団体の方々から日頃の活動を発表いただきました。食の安全・安心につながる世代間交流、食品表示研修、食農教育、栄養・食生活改善、環境問題等の日頃の実践、コロナ禍においてオンラインや少人数での開催、感染防止対策を徹底しての訪問活動等の実践、今後の活動のあり方等について情報交換し、交流を深めていただきました。

次に、大臣官房政策課食料安全保障室から「食料自給率と食料安全保障をめぐる情勢」をテーマに、日本の食料事情、食料自給率、世界人口の増加・気候変動など食料需給を不安定化させる要因の多様化と影響の深刻化、不測時に備えた取組及びニッポンフードシフトの実践等について、説明を行いその後意見交換を行いました。

出席された皆様から、多くの意見等をいただきました。主な内容は以下のとおりです。



【意見交換会の様子】

○食料安全保障関連

- ・農業者の方が多く組織なので、食料がなくなる不安の声はきかないです。肥料や飼料の高騰の影響は大きく、自分で飼料用米を作ろうという方もいました。
- ・米の消費量が減少していることを心配しています。年間を通した活動として、米粉に特化した料理教室やおやつの時間等におにぎりを食べようと保育園や学校の授業で紹介しています。

- ・適正な価格の形成という話がありましたが、実態がわからないと消費者も判断できないと思います。実態を知らせるためのつなぎ役をやっていきたくと思っていますが、県や国等と連携していくことが重要と感じています。
- ・消費者からすれば安いに越したことはないです。納得感ではないかと思います。
- ・高くても安心なものを優先的に考えた食生活を意識したいと思います。
- ・子どもたちの将来を考えて、安心につながるように世代間交流の取組を継続して行っていきたいと考えています。



【意見交換会の様子】

○その他

- ・消費者が生産現場のことをわかっていないから、商品にも価格転嫁できず、生産者の高齢化もあってやめざるを得ないという方が増えていると思います。消費者が現場の状況を知ることができる機会をもっと作る必要があると思います。



【司会進行する中嶋消費生活課長】

- ・生産者と直接会話し、自分が体験する、そのことを伝えることが、消費にもつながると思っています。
- ・Z世代に向けて情報発信しているのはなぜですか。教育の現場において、SDGs含め環境問題や農業問題がとりあげられているので、興味は持っていると思います。興味がない世代（30～40歳）に向けた情報発信をどのように考えていますか。
- ・きっかけはいろんなところにあって、好きなことと絡むと行動につながるのがZ世代ではないかと思っています。Z世代が親世代さらに上の世代に広げることもあると思っています。



【閉会挨拶する森下消費・安全部長】

- ・食品ロスを減らすことで自給率は上がりますか。
- ・農産品は規格で価格が決まっており、不揃いや訳ありでも味に変わりはないと思います。規格が市場でやり取りするのに都合よく作られたと感じます。

農林水産省から

- ・Z世代をターゲットにして SNS 等で情報発信しているのは、彼らが食や農に対する関心が薄い世代で、まさに情報化社会の中で育ってきている人たちだからです。アプリを使ってもっと身近に感じてもらえればと思っています。

・世代ごとに食生活の変化を分析しており、それらを踏まえ、政策のターゲットを考えていく必要があると思っています。

・食品ロスを減らしていくことは必要ですが、食品ロスを減らすことで自給率が直結して上がるかというと、その減少分が輸入なのか国産なのかがわからないと、その影響を算出するのは難しいです。

・平時の食料安全保障を考えると、食料自給率だけではなく、輸入先国の生産状況や輸入ルート等総合的に考えていくことが、食料・農業・農村基本法の見直しの中で論議になっています。

最後に、北陸農政局森下消費・安全部長から、「北陸農政局として、団体皆様同士や皆様の活動のつなぎ役になればと思っています。今後も、生産者情報も含め様々な情報を提供していきますし、皆様からも情報共有いただければと思っています。」と挨拶し、意見交換会を閉会としました。

意見交換会出席者

【消費者団体】 （5団体、8名）

新潟県婦人連盟、特定非営利活動法人新潟県消費者協会、

JA 新潟県女性組織協議会、新潟県生活協同組合連合会、（公社）新潟県栄養士会

【新潟県】

農林水産部農業総務課政策室

【講師】

農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室

【北陸農政局】

北陸農政局次長

北陸農政局消費・安全部長

北陸農政局新潟県拠点地方参事官

北陸農政局消費・安全部消費生活課長 ほか